

# 次期基本計画策定の考え方 【簡易版】

# 次期基本計画策定の考え方

## 【次期基本計画検討にあたっての考え方】

- 参加と協働による取組みの一層の推進、デジタル技術の活用による多様な参加と協働のデザイン
- 情報公開と情報提供の充実による多様な区民参加の促進
- 課題に応じた機動的な対応が可能な組織への転換、マッチングの推進
- コミュニティソーシャルワーカー<sup>※1</sup>を中心とした「つなぐ」機能の強化
- 多様なステークホルダー<sup>※2</sup>との複雑化する課題への対応・新たな価値創造
- バックカスティング<sup>※3</sup>を踏まえた検討
- E B P M<sup>※4</sup>の推進、全庁的なマネジメント力の強化と底上げ
- 分野横断的な取組みなどに対する検討
- 子どもや若者への積極的な意見聴取と計画への反映

# 次期基本計画策定の考え方

## 【政策や施策検討にあたっての主な視点】

① コロナ禍からの復興・物価高騰等から区民生活と区内経済を守る

② 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会

③ 地域コミュニティ

④ 子ども・若者支援と教育の充実

⑤ 持続可能な循環型社会

⑥ 新たな自治体経営

# 次期基本計画策定の考え方

## ① コロナ禍からの復興・物価高騰等から区民生活を守る

- 緊急時対応に向けた体制の推進（感染症対策、災害発生時）
- コロナ禍からの復興・発展から、持続可能な社会へ（グリーンリカバリー<sup>※5</sup>の視点）
- 区の施設運営のあり方の見直し
- 区民の暮らしと区内経済を守る取組みの推進

## ② 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会

- 災害に強く持続可能なまち、脱炭素社会の実現
- 地域循環型の福祉基盤の拡大
- 東京2020大会を契機としたレガシー<sup>※6</sup>として「共生のまち世田谷」の実現
- 相互に尊重しあいながら安心して住み続けられる共生社会の構築（多様性、社会的包摂）

# 次期基本計画策定の考え方

## ③ 地域コミュニティ

- 身近なところで多様な相談や手続きに対応する窓口の実現、安全・安心で暮らしやすい地域社会の実現
- あらゆる世代が集う居場所の創出（公共施設・空き家の有効活用 等）
- 誰もが親しめる魅力ある空間の創出（官民連携手法による公共施設等の整備）
- 近隣住民が相互に助け合える地域づくりの促進

# 次期基本計画策定の考え方

## ④ 子ども・若者支援と教育の充実

- 子ども・若者が意見を表明する場や機会の検討
- 切れ目のない子育て支援の充実（妊娠期からの「世田谷版ネウボラ」<sup>※7</sup>の支援ネットワークの連携強化）
- 在宅子育て支援や多様な子どもの居場所等の事業、場の確保などへの機能転換、機能拡充
- 若者が参画し活躍できる施策の検討
- 個別最適な学びの実現（教育総合センターの機能の活用）
- 地域の絆をコミュニティの中で育む社会教育の充実、地域の教育力の向上

# 次期基本計画策定の考え方

## ⑤ 持続可能な循環型社会

- 脱炭素の取組みの加速化、プラスチック資源循環の検討
- グリーンインフラ<sup>※8</sup>の推進
- 持続可能な地域経済の実現
- SDGsを意識した施策展開

## ⑥ 新たな自治体経営

- DXの取組みの加速（本庁舎整備を契機とした働き方改革、デジタル・デモクラシー<sup>※9</sup>による「参加と協働」の発展）
- 官民連携手法による公共施設整備の推進、多世代・多用途での公共施設の有効活用
- 持続可能な行財政運営

# 次期基本計画策定の考え方

## ➤ 用語解説

	用 語	意 味
※1	コミュニティソーシャルワーカー	支援を必要とする高齢者や障害者、子育て中の親などに対して、見守りや課題の発見、相談援助、必要なサービスや専門機関へのつなぎや、地域ネットワークづくりなどに取り組みソーシャルワークスタッフ。
※2	ステークホルダー	「利害関係者」のこと。区にかかわるすべての人を指す。
※3	バックカスティング	あるべき未来の姿から逆算して現在やるべきことを構築する視点。
※4	E B P M	証拠に基づく政策立案。
※5	グリーンリカバリー	コロナ禍からの復興にあたり、元どおりの生活状況に戻すのではなく、その復興に投じられる資金などを通じて、地球温暖化の防止や生物多様性の保全を実現し、新しい持続可能な社会を築く考え方。
※6	レガシー	東京2020大会を契機として、スポーツや文化、教育などの様々な分野で残っていく有形、無形の遺産のこと。
※7	ネウボラ	フィンランド語で「相談・アドバイスの場所」を意味する言葉。区では、フィンランドの取組みを参考に、「世田谷版ネウボラ」を実施し、妊娠期から就学前までの子育て家庭を切れ目なく支えるための、区・医療・地域が連携して相談支援する、顔の見えるネットワーク体制を構築している。
※8	グリーンインフラ	自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。社会資本整備や土地利用等、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある地域づくりを進めるもの。
※9	デジタル・デモクラシー	インターネットなどの情報通信技術を用いて、市民が政治や行政に直接的に関わること。